

農政産業観光委員会 県内調査活動状況

1 日 時 令和3年6月2日(木)

2 委員出席者(9名)

委員長 鷹野 一雄

副委員長 大久保 俊雄

委員 河西 敏郎 山田 一功 浅川 力三 宮本 秀憲 白井 友基
山田 七穂 飯島 修

3 調査先及び調査内容

(1)【考古博物館及び周辺古墳群】

○調査内容(主な質疑)

問) 全ての機種に対応できるアプリにすべきと考えるが、今後どのように対応していくのか。

答) 現在、スマートフォンにはiPhoneとAndroidの2種類があるが、そのうちAR機能に対応している機種のみが利用可能な状況である。iPhoneにおいては、3～4年前の機種でも対応可能な場合があるが、Androidにおいては、最近の機種であっても、対応不可能な場合が多いと聞いている。このようなアプリを使っているところは、まだ全国的にも少なく、先進的な取り組みであるので、アプリの機能を向上させ、普及させていきたい。

問) 来ていただいた方がダウンロードできなかった場合、どのような対応を考えているのか。

答) 言葉で伝えるよりも体験してもらうことが最も有効であると思うので、貸し出し用のタブレットの整備を検討している。

問) せっかく良いアプリを作ったから、来ていただいた方が、がっかりすることがないように、ぜひスピード感をもってやっていただきたい。

問) 入館者数の推移を見ると、シカン発掘展、ナスカ展、インカ帝国展、古代アンデス展の特別展を開催した際に、突出して伸びている。なぜこの4つの特別展で突出しているのか。

答) 世界的にも人気がある展示である。特別展は常設展を知ってもらう機会にもなるので、しっかりと来館者の増加につなげていきたい。

問) 特別展は年に何回、どういうサイクルで開催しているのか。

答) 特別展は年に5回開催しており、無料開放としている。

問) 体験学習後の感想はどのように生かしているのか。

答) 小学生がどういうところが楽しかったのか、どこに興味・関心をもったのか、いただいた声を参考に、今度はこういうふうに変えようなど、改善につなげているところである。今後は、県内だけでなく、長野県や静岡県の小学校へも働きかけをし、本県が誇る文化財の魅力について学んでもらうことを考えている。

問) 甲斐銚子塚古墳などの魅力を国外に対し、どのように発信しているのか。

答) インターネット、ホームページのほか、ツイッター、フェイスブック等のSNSを活用し、発信している。館自体が古墳群の真ん中に位置しており、館にある発掘された遺物と現場である古墳群が有機的につながっている。世界的にも珍しい文化であるので、そうした面でも魅力的な観光資源として国外へPRできると考えている。

問) 実際に来館する外国人はどこの方が多いのか。

答) どこから来たかというアンケートはとっていない。言語等からどういう方面から来ている人かを受付でカウントしている。アジア系が多いと認識しているが、実際、外国人の来館は月に20～30人くらいで、それほど多くはない。そうした方にも対応できるよう、最低限必要な英語・中国語表記の整備をしているところ。

問) これまでの外国人来館者について、データ化はしているのか。

答) 具体的にどの国かという特定まではしていないが、言語等から韓国、中国、その他ヨーロッパ系など、おおむねの記録はとっている。

問) 今回作成したアプリのダウンロード履歴から、どこの国でダウンロードされているか等を把握することができると思うが、今後そういったものを活用していく予定はあるのか。

答) どういう方がダウンロードしているか、情報としてとることができるので、今後のサービスの向上につなげていきたい。

問) データを分析すれば、どういった方に来てほしいのかなどがわかると思うので、上手に活用、注視しながら検討してほしい。

答) 日本有数の縄文土器を保管している考古博物館であるので、教育施設として、まず、県内の子供たちに知ってもらおう。そして、観光誘客の観点から考えると、縄文遺跡等に興味がある方は全国に多くいらっしゃるので、そういう方に来ていただき、山梨県に泊まっていただく目的のひとつにしてもらうことも考えている。

問) 興味がある方は、進んでアプリをダウンロードするし、来てもらえるけれど、一方向の発信ではなく、双方向のコミュニケーションとして、こうした媒体を活用していくこともできると思うので、検討してほしい。

答) 一方向からの発信ではなく、利用者にとってどういう方法が利用しやすいのか、いろいろな意見を聞きながら、今後リサーチをしていく中で、よりよいものにしていきたい。

問) 石和温泉等の宿泊施設との連携はしているのか。

答) 石和温泉への誘客、博物館との連携については、現在、観光MaaSの実証実験をして

いるところである。ルート検証等を行いながら効率的な連携を考えていきたい。

問) パッケージツアーが主流だった時代とは異なっているので、観光客の嗜好をしっかりと分析して取り組んでほしい。



※ 風土記の丘研修センターにて概要説明を受け、質疑を行った後、考古博物館企画展及びARを用いて周辺古墳群視察を行った。

(2)【意見交換会】

①出席者 やまなし女将の会の方々

②内容 「ウイズコロナ時代の観光振興に向けた取り組みについて」

○主な意見

出席者)

山梨県は、とにかく安全・安心・清潔で、コロナに強い施設にしていきましょうということで、グリーン・ゾーン認証制度を設けているいろいろな厳しいチェックを受けて、営業している現状。このグリーン・ゾーン認証制度も、テレビなどで全国へPRをして、改めてこの認証制度のすごさを感じている。お客様からも、山梨県はグリーン・ゾーン認証をとっている施設が多いから安全という声もいただいている。そうしたいろいろな施策の中で、今、県民割を実施しているが、山梨県民の文化として、なかなか県内に宿泊するという習慣がない。隣接県で感染の少ない静岡県や長野県などと提携して、もう少しこの県民割を拡大していただければ、非常に県内の観光も潤うと思うので、ぜひ検討いただきたい。私たちも精一杯の努力をするが、どうしても民だけではできない部分があるので、そういう面で、ぜひ官の力を借りて、一緒に山梨県の観光に寄与できればと思う。

今後は、修学旅行が都心はだめで、山梨県を目的地として見直されているところが多いので、その辺の助成金の問題とか、あとは、それなりの旅館をとって、接待などの名目で予算化している企業もあるので、いわゆる一般のバスを連ねての団体旅行ではなく、いろんな企業が山梨に目を向けてくれる、そういうピンポイントな政策もお願いできれば、ますます山梨県の観光が活性化するのではないかと思います。

最後に、新道峠の展望台が7月末にオープンする。新道峠から見る富士山は本当にすばら

しい光景で、笛吹市だけではなく、山梨県の新しい観光名所として県内外にPRしていただければ幸い。

出席者)

山梨県は早々にグリーン・ゾーン認証制度をつくり、知事が前面に立って発信したので、山梨県は安心ということがテレビ等でも放映され、認知されてきた状況。あれがだめ、これがだめと言うばかりで、こうすればやっぴい、これだと安全という方向を示してくださるところが本当にない中で、山梨県はすごいと改めて感じている。

私どもの現状であるが、河口湖は、通常は首都圏からのお客様が一番多いが、その首都圏からのお客様がお越しいただけない。感染拡大が収まらないと、なかなか来ていただけないかと思っている。その中でも、おいでいただけるお客様は、マイカーを使って、なるべく接触が少ない状況下で、行ってもいいのか心配しながら、お土産を買ってみんなに配ることはとてもできないような様子。河口湖は、海外のお客様も多かったが、今はゼロ。G o T o キャンペーンの期間は、たくさんお越しいただいたが、今は一息つけたかなという状況。早くG o T o キャンペーンも再開してほしいが、G o T o キャンペーンは、割引率が非常に高かったので、同じ形で再開すると、G o T o キャンペーン終了後とのギャップが大きくて、大変なので、割引率を下げても、長期的に利用できる形になるとありがたい。

そして、ワクチンの接種が早く行き渡らないとお客様にもおいでいただけないので、企業内接種という新聞記事が出ているが、小さな旅館では、企業として接種をすることはできないので、業界全体で対応できないかと思っている。現場で日々仕事をするスタッフたちも、いろいろなお客様がおいでになる中で、不安を持ちながら仕事をしているので、業界としてワクチン接種ができるような方向になれば大変ありがたい。

あとは県民割であるが、先日、他県の方がまじっていて、全員県民でないと使えない状況があったので、県民の方が、他県の方も誘っておいでいただくことが可能になるように、もう少し枠を広げていただければ、広がりができると思う。

出席者)

身延山は、特殊な地域で、宗教色が強い場所であるので、観光地と一くくりにされると、ちょっと違う場所ではある。本来、令和3年は、日蓮聖人の御降誕から800年で、さまざまな行事を控えており、この1年、一番盛り上がる年であるが、昨年から全てオンラインになり、本来、全国に5,000カ寺ある日蓮宗がこぞって来る年であるのに、非常に残念。本来、身延山は、日蓮宗の信徒の方にお越しいただく宗教色の強い地域で、今までは何もしなくてもお客様がお参りに来てくださった場所であるが、この1年半でびたっととまってしまい、門内全体が疲弊している状態。宿、飲食、お土産、すべてが今まさに危機的な状況。そこで、時間もあるこういってときだから、みんなで何かできないかということで、日蓮宗の御本山ともいろいろ調整をして、この日蓮宗の久遠寺にどういふ方々に本来お越しいただくべきなのか。観光地に当たらないわけではないが、心の癒やしということで、山梨県の中でも観光とは別の色で、お客様を引き寄せることができないかと、今、いろいろ見直しをしているところ。また、山梨県が舞台のアニメ『ゆるキャン』の広がりによって、アニメファンのお客様や、キャンプのお客様にもお越しいただいているので、実際、宗教だけではなく、そういう観光目当てのお客様もこれからはとっていかなくてはいけないと危機的状況になったおかげで目が覚めたところ。

ただ、今回痛感したのは、何分古い町で、ITを使った手続きを苦手とする高齢のお土産屋さん、食事どころの方が多いこと。グリーン・ゾーン認証について、私どもはいち早く手続きをさせていただいたが、商店街全体としては手続きの方法がわからない経営者の方がたくさんいた。また、宿坊は、とりたいたけれども、手続きの方法がわからない。商工会が窓口になっていたが、商工会に出向くにも時間と労力がかかるので、私どものほうに来てレクチャーすることが数件あった。手続きの簡素化をぜひとも強くお願いしたい。

出席者)

コロナの長期化による資金的な問題は大きく、雇用の維持も大きな問題である。国にお願いしたいことは、補助金の拡充と雇用調整助成金などの延長。山梨県においては、先ほどからもグリーン・ゾーンの認証制度のことが出ているが、大変ありがたい制度。他県の方が当館にいらっしゃったときは、山梨県はグリーン・ゾーン認証制度があるから安心だと。確かにそのとおりで、認証基準は大変厳しく、準備に労力と経費がかかったが、それでも安全・安心な環境づくりは本当によかったと思う。

これからの取り組みとしては、徹底した安全管理のもと、観光の推進をしていくわけであるが、まず、近隣の県へのアプローチ。今、山梨県では、例えば甲州牛などの食材のブランド化、地域資源のプロモーションなども行っているが、近隣の地域にアプローチして、近県と提携して、今話題のマイクロツーリズムを進めていただきたい。ことしは信玄公生誕500年で、本来ならば、県外からの観光客が多く見込まれるところであるが、このような状況で見込めない。ぜひグリーン・ゾーン認証制度を生かして、近県へのアピールをお願いしたい。

ワクチンの接種について、企業接種のアンケートが先日、各施設に送られてきた。内容を見ると、医師・看護師がその企業の中にいるかという問題で、これはだめだと諦めたが、観光業は、人の交流であるので、例えば、医師・看護師の派遣などができるような整備をしていただいて、企業内接種を普及してほしい。

出席者)

私どもは、昨年は108日間、ことしに入り、2月は1カ月ほど休館を余儀なくされた。また、今月の6月は、身延町は蛍のまちとしても有名で、ちょうどすばらしい蛍が見られる時期であるが、大変厳しい状況が続いていて、今月もかなり休館をすることを決断した。かつてこんなに休館した経験はないので、本当にどうしたらよいかかわからず、正直、気持ちが大変沈んだが、ただ何もしないで、時間を無駄にするのではなく、ウイズコロナ、アフターコロナを見据えて、今までできなかったこと、今しかできないことをとにかく一生懸命やるのが一番大事と考えている。

私どもでは、従業員を集めて、接客の心得やスキルを身につけるための研修、地域の清掃活動、また、ガイドつき近隣の観光施設めぐり、新しいプランづくり、そういうことに時間を持つようにした。また、少ない要員で業務を行うオペレーション改革についてもしっかり考える時間を持つことができた。

私どもは大型旅館であるので、団体のお客様に頼ってきたが、コロナ禍になって、団体はほとんどなく、一気に個人化が進んだ。個人のお客様により評価をいただくためには、より品質の高い商品やサービスが必要となるので、そのための研修にも力を入れてきた。コロナによって旅行の形態や旅行者の嗜好も大きく変化をしているので、新しいスタイルやニーズに合った新たなサービスを考えていかなければならない。従来の温泉のよさだけではとても生き残ることはできない。これからは旅館だけで物を考えるのではなく、地域との連携を図り、地域の文化や歴史、自然、農業体験などを取り入れながら、新しい幅広い層のお客様を取り込み、滞在型観光やリピーターをふやしていきたい。

今後は、注目されているワーケーションの導入など、これまでとは違った過ごし方の提案を、ホームページ、SNS、インスタグラムなどの媒体を使って、積極的に多くの方に発信していく準備を進めているところ。

出席者)

下部温泉のこの1年半の現状は、大変よろよろの状態。湯治のお客様が多いといっても、売り上げは50%を下回っている。GoToキャンペーンのときには一時的に大変ありがたい思いをさせていただいたが、それ以降のギャップが非常に大きく、5月の連休も、6月の

この先の予約も非常に残念な状況。

下部温泉は昔から湯治が主流になっていて、結構な年代の方でも湯治を御存じなく、電話で、「ゆじ」という問い合わせをいただくことも多い。湯治をもう少しかみ砕いた形で、いろんな方法でお伝えできればと思い、観光とか湯治とかいう境目をなくして、たった1泊であっても、ふだんと環境を変えて、免疫力アップ、ストレス解消に、御家庭でお仕事をなさっている方が多いので、1日安全な場所に移動していただいて、湯治、ゆっくり自分をリフレッシュしていただくような位置づけに、旅館を持っていくのはどうかと、下部では考えている。

各旅館によって違うが、去年、身延町の商工会と町でやったクラウドファンディングの結果で、ありがたいことにリピーターが多いことが明らかになったので、そういったおなじみ様との関係性の強みをこれからも上手に利用して、密に連絡を取り合って、御案内していく方法を考えていきたいと思っている。

今までは、売り上げだけを重視していたものを、そうではなくて、減収増益という形で何とかできるように、コロナが収束してもそれ以降がさらに厳しい状態になることが予想されるので、みんなでいろんなことを考えてやっていきたい。また、観光協会では信玄公生誕500年ということで、ミネラルウォーターや温泉のもとをつくっているの、それをノベルティーに、各旅館にお泊まりいただく方をふやすために使うなど、微々たる努力であるが、やっていきたい。

出席者)

今は、時間が本当にたくさんある。スタッフも月の半分しか出勤をしていない。それでも、またお客様が来ていただいたときに、海外のお客様も含めて、しっかりとおもてなしができるように、スタッフ教育をやり始めている。ただ、そういったところもいろんな条件があって、教育に対する補助金が取れず、自分たちのお金で全部やらざるを得ない状況。未来志向のために、そういうスタッフ教育をする企業に向けてのお金がもう少しあったらいいと思う。

河口湖というよりも私のことであるが、もう一度地域の魅力を県内外に発信していこうという取り組みで、地域の農家の方と河口湖で桃を育てて、個人のSNSやホテルのホームページで発信している。先ほど、この農政産業観光委員会の活動内容が、芸術・農業・観光と幅広いということを知って、なかなか観光だけで仕事をしていると、芸術とか農家の方とか、ほかの分野の方と触れ合う機会がないので、そういったハブにこの委員会がなっていて、女将の会と、農家の方、アートの方と、お互いの良いところを話し合って、魅力の掛け合わせをして、県内外にPRすることができたらいいと思う。そういったみんなが集まるきっかけに農政産業観光委員の皆様がなってくださったらありがたいと皆様の活動を聞いて思ったところ。

また、インスタグラムなどホテルのSNSをやっているが、今は海外の方は来られない状況だが、日本へ行きたい熱量はとても感じるので、今は来られないけれど、落ちついたら絶対に富士山・山梨に行きたいという方が、潜在的には多くいるので、今のうちにそういった方に向けてのPRコンテンツをつくるとか、アートの方と協力して、ユーチューブのコンテンツをつくるとか、あとは、女将の会が踊るでもいいですけれども、何かキャッチーなことを皆様の活動としてやって、時間がある今のうちに、できることをやっていけたらと思うので、そういったどうしてもこの産業だけでは難しいことを委員の皆様がかけ橋になって、つないでいただけたらありがたい。

議員)

先日、基準をより厳格化したやまなしグリーン・ゾーン認証制度について、宿泊客のニーズに応えられているのか。例えば、厳し過ぎてもう泊まりに行きたくないとか、あるいは、感染しないように泊まりに行きたいからもっと厳しくしてもらいたいとか、宿泊客の皆様の声があれば聞きたい。

出席者)

飲食点において、パーティションで1人ずつ区切るようにという指示があるが、旅館では違うと思う。泊まって飲食の場面もあるが、飲食の場面だけをパーティションで区切っても、部屋も車も一緒、常に一緒の状態にいるのに、必要性が疑問。

出席者)

最初は、一人一人にすべてパーティションをつけるとの話だったが、同一部屋ならよいと見直された。また、食事で火を使うため、火災の心配がある場合は従前の基準に従うこととなっていたかと思う。

それから、コロナ対策として、見えない部分での感染対策が必要と感じていて、例えば浴衣、バスタオル等のリネン類は、業者に出してクリーニングをするが、帯とか浴衣の上に着る丹前は客室を一つ潰して、毎日宿泊客が帰られた後、オゾンの機械で除菌をしている。手間と費用がかかるので、その辺を少し補助金でみてもらいたいが、小規模旅館、中規模旅館、大規模旅館等で補助額が同じなのはどうかと思う。

グリーン・ゾーン認証の感想としては、今までは、お客様の食事にお部屋に入り、湯飲み・急須等をきれいにし、そのまますぐ気持ちよく使えるようにしていたが、現在は入室をしないでそのまま。お客様の荷物も持たない。それはお客様のためでもあるし、スタッフの感染防止のためでもある。それから、食事時間の制限について、お客様からのクレームが多かったが、クレームは最初だけで、お客様も感染予防対策のほうが大事とわかって、山梨県のグリーン・ゾーン認証制度に感心していただき、安心というお声をいただいている。

出席者)

私どもでは、県の指示を遵守し、対策をしているので、お泊まりいただくお客様には、これほどまでにしっかり対策しているところはないとお褒めをいただいている状況。また、今回の基準見直しで、さらに細かい指示がきたので、7月中にそれをしっかりするようにということですので、できる限りそれに沿ってしっかりやっていきたい。

議 員)

やまなしグリーン・ゾーン認証制度の今後の展開で検討すべきところと思っている。利用客に最も接しているやまなし女将の会の皆様の声を届けたいと思うので、ぜひ声をまとめて、出していただくことが重要だと思う。

補助金の拡充の件についても、確かにホテル・旅館の規模の違いによって、大きい旅館が小さい旅館と同じものをそろえればいって話じゃないと思うので、実は大型の飲食店から、私も個人的にそういう声を聞いている。なかなかお金のことで、慎重な議論が必要であるが、しっかりと今の声を聞かせていただいて、納得できる場所だと思ったので、しっかりと我々もその声を県に届けてまいりたい。

議 員)

身延は非常に特色・宗教色がある地域で、『ゆるキャン』という言葉も出たが、観光とは違う切り口から客を呼ぶための活動もされているとのことで、そこをもう少し詳しく聞かせてほしい。

出席者)

私は県外から嫁に来て15年ほどたつが、嫁に来るまで身延という土地を知らなかった。高野山や比叡山など、日本に名立たる宗派がある中で、日蓮宗もそこに入っていかななくてはならないという空気をずっと感じていた。身延山という大きなものと町が一つになり、宗教だけでなく、県外からの一般のお客様にもなるべく幅広く来ていただけるように、ここ数年

で、ようやく開かれてきた。町に戻ってきている青年たちがおりまして、だんだん考え方も緩くなってきた。今までは、『ゆるキャン』は合わないという意見が出たと思うが、ここ数年で若返りが始まり、『ゆるキャン』もいいじゃないか。何ならロープウエーもゴンドラも『ゆるキャン』にすればいいんじゃないかという意見もあった。今までどちらかという、高齢の方たちが権力を持っていたので、なかなか下から意見が言えないところがあったが、最近ようやく意見交換ができるようになった。また、SNSの普及によって、私たちの若い世代から世界中にアプローチができるようになったことも非常に大きい。ただ、まだまだ身延山という土地柄か、ホームページがない宿・飲食店が非常に多い。商工会が力を貸してくださっているが、もう少し県から補助金が出たり、ITの講習会をわかりやすい形でできたりすると、非常にやりやすいと思う。身延山は非常によい場所ですので、宗教だけでなく、一般のお客様も実は大歓迎で、わいわいがやがや騒いでいい土地柄ではないかもしれないが、心の癒やし、パワースポットとして、少し前までは歴女ですとか、そういう皆さんがこぞって、御朱印回りで来てくださったりしていたので、個人的には幅広いお客様にお越しいただきたいと思っている。

議 員)

下部温泉について、この地域の湯治と歴史的なあり方と、どういうふうにブレイクダウンしていくかという話であるが、医療との連携で、既に医療機関と何か話をされているのか。

出席者)

過去にはあるが、今は頓挫している状態、ただ、下部温泉の駅前に、門前会館という避難場所・会議ができる場所があるが、区民のために、あるいは外来の入浴のお客様のために、建物を建て直すことが決まっていて、そこを経営するのは薬局の関係と決定したようなので、そこが入ると、温泉入浴指導員であるとか、医療等の連携がより近くなるかと思う。

議 員)

時間がある中で遊ばせておくのはもったいないので、未来のために投資をする未来志向の補助金、すごくいいと思うので、私も県に働きかけていきたい。たまたまきのう、労働局から委託をされているある事業者の、これは失業保険を持っている人だと思うが、全国初のAIとIoTの研修を甲府で受けて、こんな先進的なことをやっているのかと思った。もしかすると、結構厚生労働省がやっているそういうメニューがあるのかなと思って、それは私も個人的に調べようと思うが、質問は、どういった講習メニューがあるといいのかを教えてください。

出席者)

私も厚生労働省の補助金を調べたが、やはり失業者なので、働いている人は受けられない。なかなか、私たちも辞めさせることが難しい状況で、働いてもらう人たちに向けた教育にもっとお金が出ればいいと思う。内容は、IT。だんだん我々のホテルも脱ペーパーレスで、電子チェックインなどにどんどんシフトしようというところ。やはり高齢の方になればなるほど、そういったiPadですとか、そもそもパソコンとか、SNSというワードに弱くなってくるので、本当に初めの「は」の字ぐらいのもあったらいいし、あとは、接客のレベルで、我々が今取り組んでいるのは、山梨にいながら東京のものが見られるオンライン講座の利用、元リッツカールトンの人たちがサービスのノウハウを教えてくれるなど。本当にすぐ使えるので、どのレベルのスタッフが受けてもいい。あとは、海外の方が戻ってきたときを見据えて、英語は、年齢によってアレルギー反応も違いますし、若い子だと何でもできるけど、少し30代、40代になってくると、なかなかどう言ったらいいのかわからなくて、本当に単語をつなげて、何か嫌な気持ちを持ったまま終わるみたいになっている。個人の企業だとなかなか難しいので、接客・観光に特化した英会話を業界として学べる機会があれば

うれしい。

議 員)

コロナ禍で安心安全に対する意識を強く持っている方が多いので、やまなしグリーン・ゾーン認証制度をしっかりとPRして、山梨の売りにすべきだと思う。これからワクチンが出回れば、インバウンドも当然戻ってくる。そうなったときに、国内だけではなく、世界に向けて、やまなしグリーン・ゾーン認証制度をワールドスタンダードにしていって、安心安全で呼び込むということを、次の段階として考えていくべきであるが、仮に、海外の方が来た場合に、このグリーン・ゾーン認証制度を理解してもらえるかどうか。皆様は海外の方も接しているので、そこら辺よくわかると思うが、そういったところはどうか。

出席者)

今は海外のお客様はゼロなので、どういう反応を示されるかはわからないが、知事が3月下旬に送別会も春休みもお花見もいいですよ、みたいな発信をされて、結構マスコミで取り上げられたが、山梨県はそういうふうに行っているという発信は、日本の方でも海外の方でも同じように響くと思うので、ぜひ発信をしていただいて、そして、安心して御利用いただきたいという思いは国内外変わらない。そして、非常事態宣言が解除されたタイミングぐらいで、山梨、安心ですよ、ぜひおいでくださいと、もう一度言っていたらいいと思う。

議 員)

いずれにしましても、急に海外のお客さんが来て、それに対応するには、また混乱を来したりすると思うので、今の時期、なかなかそんな将来のことまで考えられないかもしれないが、そこまで見据えて考えていただいて、意見があればしっかりと行っていただけたらありがたい。

議 員)

食事・観光・アクティビティなどいろいろあるが、一番大事なのはトイレだと思う。私の妻が大分県出身で、湯布院に何回も行ったが、トイレは本当にどこへ行ってもきれいで、お土産屋さんに行って、買わなくても気軽に貸してくれる。子連れの女性も安心して長居できる。今も取り組まれていると思うが、トイレに関してお答えをいただきたい。

出席者)

私も子供が2人いて、赤ちゃんを連れながら河口湖を歩いて回ることもあったが、子供のおむつを替える・授乳をする場所が本当になくて、本当に汚いトイレで座りながら授乳した記憶もある。そうすると、もう宿に帰ろうかな、もう家に帰ろうかなって、街を散策する時間が短くなるので、そういう街の整備は大事だと思う。そういったところが河口湖もまだもうちょっとかなと思う部分ではあるので、何か県の方に言ってもらって、町の人も意見を言ってもらって、広まればいいと思う。

議 員)

今回、例えば窓のない部屋があれば窓をつけるとか、換気をするとか、あるいは高性能のエアコンを入れるとか、補助金を利用して、この機会にどういう改修をされたのか。また、例えばテレワークスペースを用意するとか、この期間に業態・業容が変化した事例はあるか。

出席者)

グリーン・ゾーン認証に伴う設備投資、設備整備の部分では、換気のできるエアコンに全部かえる、網戸のない部屋は全部網戸を入れる、もう本当にありとあらゆることをして、その設備投資は莫大なもの。最新の見直し基準は、例えば、アクリル板は、今まで60センチ

メートルでよかったものが、今度は70センチメートルとなると、60センチメートルのものはどうしたらいいのか。既に最初の条件に基づいて補助金もいただき、整えさせていただいたものが全て無駄になってしまうのも非常に困ることで、新たにまた用意しなければいけないとなると、どうしたらいいのかと日々悩まされて、それでまた、立ち入り検査の通知もきてるので、その辺は本当にどうしたらいいのか悩んでいる。

もう一つの業態変更について、確かにテレワークは今、全国的に普及しているが、同じ山梨県でも、環境や施設によって温度差がある。私どものところは、最近、男性のお客様が一人で3泊、4泊なさる場合もふえました。ただ、だからといって、テレワーク用のものを準備したり、環境的に周りにお食事できるところとかが少ないので、長期滞在となると今度はお食事の準備に1週間、10日となると、都市型のホテルと違って旅館なので、メニューについて、ちょっと苦労しなきゃいけないのかなと、なかなかそういうテレワーク向けのアピールは、現実できていない。

それと、先ほど、渡辺さんがいろんな業種との交流の場をと言いましたが、私も常々、山梨県は観光の素材、すばらしいものがたくさんあって、例えば地産地消。果物もすごく豊富。お客様も山梨に来たらもっとたくさん自由に桃が出るのかと思ったとか、シャインマスカットが食べられるかと思ったとか、そういう声がたくさん多い。ですから、やはり、かけ橋になっていただいて、いろんな業界の方たちと意見交換の場を持たせていただいて、お客様に販売するのは、値段が高くておいしいものであればどんどん売れる時代なので、業務用を、地元に対して、少し安く提供できるような方法など、何かそういうことがあれば、ぜひ議員の方々のお力添えをいただければと思う。

出席者)

私もずっと思っていて、果物に関して言えば、フルーツ王国山梨、そして、ワイン県ということで、非常に食べ物・果物・ワイン、お酒も水のきれいさも、もっともっと広められないものかと常日ごろ思っている。

女将たちが着物を着て、キャンペーンと一緒に出かけ、大声は出せないが、得意な接客でPRに参加することもできるので、何か協力してできることがあれば非常にうれしい。

議員)

資金繰りが喫緊の課題だと思うが、金融政策・金融支援について、何か要望はあるか。

出席者)

融資を受けてもお返ししなければいけないので、いつまでという期限があれば、それに向かっていろいろな努力をしながらやっていけるが、それが見えない中で、手探り状況という厳しい事態であるので、雇用調整助成金など業界に応じた支援を今後、厚生労働省のホームページに6月まで緊急事態宣言で、その翌月の7月までとあるが、それぞれの業種によって対応ということではっきりとした方針はまだ打ち出されてないが、なるべく早くそういう方針を打ち出していただいて、ぜひ雇用調整助成金を何とかこの観光業に対して長く支援いただければと思っている。

議員)

県も、観光推進機構があれば、観光文化部内に4課あって、例えば、支援金ひとつでもどこへ電話していいかわからない。グリーン・ゾーン認証制度にしても、所管がどこかわからない。そういった観光団体、商工会との連携で、特筆すべき成功事例はあるか。

出席者)

話が違ふのかもしれないが、ことしは固定資産税の減免があつて、とてもありがたくて、去年、業績が悪かったから、ことしは減免という状況なので、正直ことしも悪くて、固定資

産税の負担は大きいので、せめて来年も減額・減免していただけるととてもありがたい。

議員)

今、あらゆる場面で女性の視点が非常に重要な時代で、さらなる女性の積極的な雇用が必要であると承知しているが、実際のところどんな状況か。

出席者)

3月26日に県の「やまなし女性の活躍推進ネットワーク会議」に出させていただき、先進企業のすばらしい取り組みに、ただただ関心した。そういう意味では、私どもの業界が一番底辺ではないか。やはり、お客様ありきの商売で、時間から時間までとか、そういう制約ができない。渋滞にはまったお客様が2時間遅れれば、2時間待機していながら、そのあとのおもてなしをさせていただかなければならない、そういう環境であるので、雇用条件は本当に大変な業界だと思う。

そうかといって、おもてなしという意味では、やはり女性の雇用は非常に大事で、きめ細かなサービスや心遣いは女性のほうがまさっていると思うので、そういうやる気のある女性をいかに雇用していくか。例えば保育園をつくって、子育てのお母さんたちでも安心して就業できるような環境をつくるなど、一個人の企業ではどうにもできない部分で、業界が一つになって、そういう環境を整えれば、本当にいい人材がそろえると思う。サービス業は好きだけれど、ちゅうちょされる方も現実には多いので、そういう環境づくりも大事だと思っている。

議員)

結婚・妊娠・出産とライフフィールドが多岐にわたるが、家庭と仕事を両立して長く働いてもらうために、どんな取り組みをされているか。

出席者)

私どもは、全従業員の中で女性が占める割合が3割で、会長から話があったとおり、本当に女性はきめ細やかな対応ができるので、実は今、もっと女性の雇用を多くしなければいけないということで、取り組みとしては、拘束時間が、朝食から昼がなければ半休して、夜の接待、宴会が終わるまでという、今まで本当に長い拘束時間だった。今、それをほとんどなくして、朝食から出ていただいた方には、いろんな業務をしていただいて、夕方上がる、お昼からの方には、お昼から夜までという、時間を短くするシフトづくりをしている。そのために、実は7~8年前から、1人3役というマルチタスクを取り入れ、今、大分うまく回るようになってきた。そういう努力をこれからももっとしていかなければいけないと感じている。

議員)

多様な意見を政治に反映するためには女性議員が必要であると感じるが、全国的に見ても地方議員は女性議員が少ないという課題がある。皆さんのお立場から、どうしていけば女性議員がふえていくか率直な意見があればいただきたい。なかなか女性議員がふえていないのが現状で、強要するものでもないし、その辺どうすればいいと思うか。

出席者)

こういうことをしたいという必要性があって、そのためには、やはり議員にならないとできないみたいな、そういう強い思い。私は昔、住居の近くで選挙事務所のお手伝いを何度かしたが、選挙は大変なものだという記憶がある。この思いをして議員になると、初心を貫くとか、目標を持って施策を実行なさるとか、すごく高いところに志を持てるのかなど。ただ、今の若い女性は、そういう強い志のある方が多くなっているように感じる。現実、身近にそういう人がいないので、中途半端な発言で申しわけないが、そのように思う。



※東山梨合同庁舎にて意見交換会を実施した。